

■第77回 河川レンジャー制度運営委員会（2026. 2. 27）議事録

◆出席：中谷委員、北井委員、平山委員、佐々木委員、柴山委員

（太字：決定事項、R印：河川レンジャー、△印：事務局、○印：一般傍聴者）

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
1. 開会	△岡本	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、ご多忙の中、河川レンジャー制度運営委員会にご出席を賜り、御礼申し上げます。北井委員が遅れておられますが、第77回河川レンジャー制度運営委員会を開催いたします。 ・私は、琵琶湖河川事務所の管理課長をしております岡本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 ・本日の委員会は、滋賀県の加藤委員が公務の都合でご欠席でございます。その他の委員の皆様にはご出席いただいております。委員会規約第8条第2項では過半数以上の出席により委員会が成立いたしますので、委員会の成立をご報告させていただきます。 ・本日は、公開と非公開の議事にてご審議いただく予定です。公開の議事では、主に河川レンジャーの活動継続に向けた環境整備についてを予定しております。また、非公開の議事では、新規の河川レンジャーの審査をご審議いただく予定です。 ・以降につきましては、河川レンジャー活動支援室から確認させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・支援室の中西と申します。よろしくお願いいたします。 ・まず、委員会資料の確認でございます。議事次第を1枚、委員名簿を1枚おつけしております。それから、本資料として資料-1から3、参考資料として1から5までをお配りしております。不足がございましたら、お申し出ください。

（太字：決定事項、R印：河川レンジャー、△印：事務局、○印：一般傍聴者）

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
2. 委員紹介	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・続きまして、委員の皆様のご紹介でございます。委員名簿をご確認ください。この書面をもって紹介をさせていただきます。 ・まず、委員長の中谷委員でございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・中谷です。よろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それから、平山委員はウェブからの参加でございます。
	平山	<ul style="list-style-type: none"> ・平山です。よろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、佐々木委員でございます。
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木です。よろしくお願いいたします。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・それから、北井委員ですが、ただいまこちらに向かわれております。 ・加藤委員は、冒頭ございましたように、本日ご欠席でございます。

		・それから、柴山委員でございます。
	柴山	・柴山です。よろしくお願いいたします。
	△中西	・ありがとうございます。 ・今、北井委員が到着されました。
	北井	・すいません。大変失礼しました。
	△中西	・ありがとうございます。以上が委員の方でございます。 ・それから、琵琶湖河川レンジャーの4名の皆様は会場の後ろで傍聴いただいております。後ほど登壇いただく予定です。 ・河川レンジャーの事務局でございますが、河川事務所の田中総括保全対策官、岡本課長、芝野技官、奥野専門調査官と事務局の面々でございます。以上、よろしくお願いいたします。 ・本日の議事は、議事次第のとおり、「報告」から「その他」まで、また非公開審議等を予定しております。長時間にわたりますが、よろしくお願いいたします。

(太字：決定事項、R印：河川レンジャー、△印：事務局、○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (1) 河川レンジャー活動支援室からの報告	△中西	・続きまして、審議ということで、これ以降の進行は中谷委員長に託させていただきます。よろしくお願いいたします。
	中谷	・では、進めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 ・議事次第が配られておりますので、これによりまして進めていきます。 ・まず報告事項で、活動支援室からの報告をお願いします。
	△中西	・では、資料－1でございます。 ・本日、河川レンジャーの皆様がたくさんお話ししていただきたく思っておりますので、事務局からは手短かに説明をいたします。 ・1枚目は、令和7年度に支援室で支援しました主なスケジュールでございます。2月のところを見ていただきますと、本日、第77回制度運営委員会ということでございます。また、参考資料におつけしておりますが、先日、河川レンジャーレポートの58号を発行しました。 ・前回の委員会から今までということでは、12月に臨時の制度運営委員会を実施しております。その後は、河川レンジャーミーティングを開いております。 ・以上が今年度の支援室の動きでございます。 ・2ページ目の2番は「河川レンジャー・河川レンジャートライアルの募集状況」でございます。本年度は、10月に1名の応募がございました。トライアルのほうは、応募がございませんでした。 ・3番は「応募者に対する河川レンジャー審査の実施」ということで報告させていただきます。12月24日に非公開で臨時の制度運営委員会

		<p>を行いました。残念ながら、その結果、任命には至らなかったというところでございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4番の項目ですが、支援室のほうで河川レンジャーの活動サポートボランティアの応募を募って、レンジャーさんのサポートをしていただこうということで動いておりました。今年度は9名の方がボランティアに参加されて、瀬田川たんけんたいをメインにサポートいただきました。また、野洲川のほうでも1件活動いただきまして、レンジャー活動とはどんなものかを一般の方にも知っていただいた、興味を持っていただいたというようなところがございます。 ・3ページ目は、河川レンジャーレポート58号の発行でございます。主に秋から冬にかけての活動を報告しております。水上レンジャー、野村レンジャーによる小・中学校での防災活動、またデジタルマップ作り、野洲川の清掃活動の状況を掲載しております。拡大版が参考資料にもございますので、またご覧ください。 ・簡単でしたが、事務局からの報告でございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。支援室からの報告をいただきました。 ・この件に関して質問等はないでしょうか。・・・よろしいですか。では、次に進めさせていただきます。

(太字：決定事項、R印：河川レンジャー、△印：事務局、○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
3. 報告 (2) 河川レンジャー年間活動報告	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・レジメでは報告と年間活動計画の審議が分けてあるんですけど、延長線上の活動もあるので、報告しつつ、それを受けて「こうやります」という進め方のほうがまとめてお話も聞けて効率的かと思うのですが、レンジャーさんの準備具合はどうでしょうか。よろしいですか。
4. 審議 (1) 河川レンジャー年間活動計画	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・すみません。ちょっと変えますが、そのように進めさせていただきます。 ・そしたら、時間配分はコントロールしていただいて、順番にお願いしたいと思います。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・報告と計画を続けてお話ししてもらったらいいですか。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・はい、続けてやっていただくということで。
	△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。 ・それでは、レンジャーの皆様にご予定していただいていた報告と計画の説明ですけど、それぞれ5分ずつお願いしておりますので合計10分、また質疑応答も10分とりまして、お一人20分の予定です。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらを重点的にというのは、持ち分の中で適宜考えていただければ結構です。

△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・そうしましたら、お手元の資料では、今年度の報告が資料－２、来年度の計画が資料－３となります。 ・トップバッターは根木山レンジャーで、どちらも１ページからです。また、スライドも用意していただいておりますので、そちらの画面も見ながらお聞きいただけたらと思います。 ・では、よろしく願いいたします。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さん、ありがとうございます。河川レンジャーの根木山です。よろしく願いいたします。 ・お手元の年間活動報告書では、今年度は目標を３つに分けて、上流部（栗東市域）での活動、中流部（野洲市域）での活動、下流部（守山市域）での活動というふうに３つに区切って取り組みました。中流部と下流部はいい感じにできたんじゃないかなと思っておりますが、その分、上流部のほうは手が回り切らなくて、十分に活動できなかったなという自己評価をさせていただいております。 ・それでは、スライドのほうで中間報告の後のところをメインにご報告させていただきます。 ・これは全体の見取り図で、上流、中流、下流と分かれて活動していきますよという内容になってます。 ・これは中間報告でもお話ししましたが、中流部での社会実験への参加です。 ・下流部のほうでは、今まで清掃活動を１人でされてきた方が住民を募ってみんなでやりたいということをおっしゃったので、昨年度の途中から伴走支援という形で一緒に準備をしてきました。今年度初めに１回目の活動をされて、その後、団体そのものを発足させて、地元・守山市のまちづくり助成金の申請にも挑戦されました。３万円ですけれども、それが採択されて自分の活動資金を得て、ゼッケンなんかも自分たちで作られて、最近はおそろいのゼッケンを着て清掃活動に取り組まれています。あと、今まで個人でされてたときは出張所のほうに「ごみ袋をください」みたいな感じでしてたんですけども、今年度は活動資金を得られたので、自分たちで助成金を使ってごみ袋なんかも購入されています。ほかにも、守山市にボランティア活動用のごみ集積所があるので、その手続もご自身でされています。一部、廃タイヤとか、守山市で受け取ってくれないごみは河川管理者にお願いしているんですけども、基本的な燃えるごみとか燃えないごみは、守山市のほうに減免処理してもらって持ち込むというようなことをされています。 ・１月、２月と、２か月連続で活動されて、すごく多い人数ではないですけども、７名の方が継続的に参加されてます。３月にももう一回やりたいということで準備をされています。初めは本当に集まるのかなと心

配だったんです。初めは自分ともう2人に声をかけて3人メンバーができて、3名以上集まるのかなと思ってたんですけど、ちゃんと7名・7名集まってくださいました。中にはお子さん連れで1月に初めて来られて、2月のときは、「ラジオ体操しましょう」と言って、ラジカセを持ってきてラジオ体操をされている方もいました。それぞれいろんな動機があるんだと思うんですけども、この清掃活動の場を皆さん楽しんでおられて、いいなと思っております。

- ・あと、ずっと支援し続けている住民グループのほうもメンバーが入れ替わりながら活動を続けてます。最近では、利用する活動だけじゃなくて、冬場にはごみ拾いをしたり、河道内の幼木伐採も継続的にしています。2月の活動が延期になってしまいましたが、今年も3月にやる予定です。
- ・上半期の活動ですけれども、意見聴取ということで参加して下さっている住民の声を聴取してます。お手元にもお配りしておりますので、またお目通しいただけたらと思います。
- ・スライドに戻ります。
- ・基本的には、こども園のアンケートも非常に好意的に受け止めてくださっている方が多くて、喜んでます。川に関する意見を抜き出すと、ありていのところですけども、自然に触れ合える場所とか。まあ、川に親しんでいる立場からすると、当たり前なことだけでも、ふだん川にあんまり近づかない人してみると、野洲川の魅力に気づく機会になっているんだというのが分かります。あと、今年も事前に僕のほうで除草作業をしたんですけど、ちょっとヨシの切り株が危ないというご指摘があったので、来年度は気をつけたいなと思っています。
- ・もう一つは、住民グループがされたオープンデイでアンケートをお願いしたところ、99人の参加者のうち、12人の方から回答をいただきました。これはそのアンケートフォームです。お配りしてるのはいただいた回答そのもので、総論としては高い満足度で活動してもらっているかなと思ってます。
- ・公園に関する要望で言うと、数年前に守山市役所さんがトイレを仮設のものから近くにある使っていない建物を改修してきれいなものに替えたんですけど、それが好評だということが分かりました。あと、駐車場の入り口が初めての方にはちょっと分かりにくいというご意見がありました。
- ・それでは、今後に向けた課題と、その流れの中で次年度の計画もお話しできたらと思います。
- ・今年度の反省として上流部での活動が十分に手がつかなかったもので、今、5月か6月ぐらいには一回何かしら住民参加する活動をしたいと思っています。一緒に参加してくれそうな住民さんも目星が立ったので、上流

		<p>部では来年度はそれに向かってまず取り組めたらいいなというふうに思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中流部（野洲市域）では、野洲市役所さんと河川管理者のほうで整備が始まっていて、今年度は河川レンジャーとして社会実験に参加できたのがよかったなと思っています。この間も野洲市の住民の方とお話をしたら来年度も社会実験するみたいよということだったので、また参加できたらなと思っています。ただ、工事が始まっているので、どういう場所でどういうふうにできるのかについては多分市役所のほうでも検討されていると思うので、またちょっと情報収集してご一緒できたらなと思っています。 ・あと、野洲の市民さんの中にも、親子の方ですけれども、「ふだん自然体験をしたことないけど、もし整備が始まっているんだったら何かしてみたい」とおっしゃっている方に出会えたので、「じゃあ、一回ゴールデンウィークぐらいに何か場を持ちましょうか」という話をし始めています。まずはそういう小さいところから地元住民の方と一緒に川を利用する機会を来年度はつくっていただけたらいいなと思っています。 ・下流部では、新しく始まっている野洲川クリーン活動の支援をしていただけたらなと思っています。1月は行程が3.5キロありました。主催者の方は、初めはもう少し長い距離を希望されていたんです。すぐくごみを拾いたい方なので、長い距離を計画されるんですね。でも、「ちょっと長くないですか」と言って、1月は3.5キロにしてもらいました。2月は行程が3キロだったんですけど、さらに短くしてもらいました。参加されている高齢の方も「足元も悪いし、もうちょっと短いといいな」みたいなことを活動中でおっしゃってしまして、主催者の方はすぐくごみを拾いたい方なので頑張りたいんですけども、参加される方はみんな同じではないので、あんまり突っ走ると、活動が続かなくなるというか、多分主催者の方だけが続けるという形になっていくと思うので、その辺は調整をしながら——まあ、いろんな動機の方がいらっしゃるとは思うんですけども、ちゃんと主催者の周りに定期的に野洲川に来て一緒にごみ拾いに参加できる住民の方がいるという状態を持続できるようにサポートできたらいいなと思っております。 ・そんな感じで来年度も活動できたらなと思っていますので、またよろしく願いいたします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・根木山さん、ありがとうございました。 ・委員の皆様から質問等々お伺いいたします。どなたからでも結構です。どうぞご発言ください。 ・はい、佐々木委員。
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・根木山さんは私が退任してからすごい長いことしていただいていると思

		うんですけれど、来年も河川レンジャーを続けようと思うその動機は何ですか。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいというのが一つかなと思いますね。あんまり河川レンジャーの場では関係ないので言わないですけど、コミュニティ・オーガナイズングという顔があって、それを本業でもやっているし、河川レンジャーの場でも駆使しているわけなんですけど、その非常にいい実践と自分なりのラーニング、学びの場になっていて、しかもお金をもらいながらできるので、ありがたいなと。それと、下流部で培ったノウハウが中流と上流という新しい場でやっても通用するかしらないかみたいな、自分なりのテストケースになっているので、ありがたいなと。あとは、「川の恵みで人間は元気になる」ということは河川事務所との意見交換会でもお伝えさせていただいているんですけど、住民にとって川というのは非常に貴重で、価値のある場だと実感できているので、それはありがたいなと思ってます。
佐々木		<ul style="list-style-type: none"> ・大変密度高く活動いただいているので、モチベーションというか——まあ、現実人間がやることなので、その辺りはどうされているのかなと思ってご質問させていただきました。ありがとうございます。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがでしょうか。 ・はい、北井委員、どうぞ。
北井		<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木さんの質問の角度がちょっと違ったので、私も似たようなことで。 ・野洲川では長い間ご活動いただいているし、いろんなところでつなぎを行っていただいて充実してきているな、毎年の成果がすごい濃いなと思っています。 ・昔から「河川レンジャー」というワードはなかなか定着しなかったり、説明しづらかったりで、その辺の課題もあるなと思うんですけど、今も同じような感触なのか、何かしら変化があるものなのか、活動に入られるときにご自身で感じられることなどがありますでしょうか。「河川レンジャーです」と紹介されるのかなとは思うんですけど。
R根木山		<ul style="list-style-type: none"> ・守山だと、長年させていただいているので、当たり前になりつつあります。例えば中洲会館さんとか、地元へ行っても「まいど」という感じなんですけど、やっぱり新しいフィールドへ入ると、「初めまして」とご挨拶しないといけないし、「河川レンジャーというのはこういうものなんです」と説明しないといけないので、それはちょっと新鮮です。 ・守山では、いいか悪いかは別にして、皆さんが「河川レンジャーの根木山です」と受け止めてくださっているので、わざわざ「河川レンジャーって、こうなんですよ」と言わなくても「あの根木山さんがやっていることね」と思ったださっているのでもいいんですけど、新しいところではそれが通用しないし、言葉で説明しても伝わらない。そこはちゃんと

		役割を体現して、「根木山さんがやっていることが河川レンジャーなのね」と理解してもらえないのかなというところがあると思うので、ちゃんとつなぎ役を果たせるように体現していきたいなと思ってます。
	北井	・何か補足の紹介ツールがあるんですか、伝える工夫として。レポートが充実しているなと思うので。
	R根木山	・でも、結局は、体現するしかない、見せるしかないかなと。言葉で「つなぎ役」と言っていて、本当に「紹介しました」みたいなのは、つないではいるけど、本質的なつなぎじゃないので。本当に住民が川に来て「あっ、住民がここにいるんだ」とか、逆に住民の側からしてみたら「ちゃんと国土交通省の職員さんが胴長をはいてここにいるんだ」みたいなのが体現されているということなのかなと思うので、それをちゃんと一つ一つつくっていくことが大事なのかなという気はしています。
	北井	・ありがとうございます。
	中谷	・ほかにいかがでしょうか。 ・平山委員、どうぞ。
	平山	・今回、アンケートの結果を詳細にまとめていただいているんですが、これはいつからこういうふうにとられてたんですか。
	R根木山	・多分、住民グループの川遊びのときは何年か継続してやっていると思います。もしかしたら、年度末の活動報告にしれっとつけてたりするかもしれないので目に留まってないかもしれないですけど、一応この数年はやっていると思います。
	平山	・もし過去にいただいた意見と今の意見とで何か雰囲気が変わってきているところが見れるのであれば、ちょっと見直してみてもいいかなと思いました。 ・それから、オープンデイのほうの回答ですが、それを書いた人をイメージしにくいです。何歳ぐらいの人で、何人ぐらいで来ていて、子どもと一緒になどの情報と併せて、その人がこういうふうに言っているというのが分かれば、読み取りやすいかなと思いました。コメントです。
	R根木山	・ありがとうございます。来年度はちょっと質問項目を増やせたらなと思ってます。 ・でも、基本、親子で来てくださっているなので、そういう意味では、30代・40代ぐらいの子連れのお母さんが答えてくれているというイメージだと思います。
	平山	・あと、地域も、どれぐらい近所の方なのかというのも分からなくて。
	R根木山	・そうですね。その辺は必ずしも地元というわけではないので、それは来年度の質問フォームに加えるようにします。
	平山	・ありがとうございます。

R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局も覚えといていただけますか、忘れそうな気がするのです。結構効率的にバババッと同じようにコピーしてやったりするので、声をかけてもらえたらありがたいです。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・その辺もぜひ充実していただいているところですかね。ありがとうございます。 ・はい、どうぞ。
柴山	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ありがとうございます。 ・MIZBEステーションは、今まさに整備とか進めているところなので、引き続き野洲市ともども連携させていただければなというところがございます。 ・ほかの委員からもいろいろコメントがありましたけど、発表を見させていただいて、すごい密度の濃い活動をされているようにお見受けしました。一方で、栗東市域のところはまだちょっと、つなぎとなるような住民の方を見つけるところなのと言われていましたけど、正直、これで栗東まで広げると、手が回るのかなと。広げるか、あるいは今やっているところを深めたほうがいいのかどうか。でも、計画を見ると、栗東も入っているから、やっぱりちょっと広げたほうが活動的には深まるかなというご判断ということよろしいんですか。
R根木山	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね。ここ数年の委員会あるいは事務所との意見交換会も踏まえて、せっかくなら広げていけたらいいのかなと。ただ、少しのらりくらりと。 ・中流域は、国交省と野洲市役所さんで整備を始めるぞというのがどんと活動が進むきっかけになっているんですけど、栗東市は、今のところ、そういうきっかけがあんまりないので。以前の事務所長の頃に地元の首長さんとの関係性の中で「何かちょっとやりたいよ」みたいな話が少し伝わってきたりもして、「じゃあ、ちょっとやってみましょうか」みたいなところで始まったりもするんですけど、その後、栗東市役所側と——まあ、こっちがあんまりプッシュしてないというのもあると思うんですけど、そんなに向こうから「来て来て」みたいな感じがなかったりもするので、それもあって結果的にちょっと手薄になって。でも、昨年度、一昨年度は1回ずつ活動はさせていただいてますし、公園を占用されているスポーツ協会という団体さんとも顔見知りにはなっているんで、その辺はまず細く長くつないでおくと、何かきっかけがあったときにスタートが切りやすくなるのかなと。そういう意味でも範囲としては広げといて、ある程度長くさせていただいている分、ノウハウはたまってきていて、効率的に——さっき言った話じゃないですけど、いろんなものをコピーしてばんばん回していけるので、その辺は効率的にできる部分は効率的にさせてもらいながらできたらいいのかなというふ

	うには思ってます。
柴山	・分かりました。ありがとうございます。
中谷	・栗東市域だと、事務所さんの事業はあんまりなかったですかね。瀬と淵の創出みたいところは一旦終わっちゃったんですか。
柴山	・モニタリングとかはしますけど、事業という意味では一旦終わって。
中谷	<p>・植生とか、興味ある人がいるかもしれないので、例えばMIZBEステーションの中に、機会があれば、さりげなく、「レンジャーさんがいて、こういう活動してますよ」とか、何かうまくリンクするようなことを仕掛けてもらおうと、余計広まりやすいという面もあるかもしれない。無理に「レンジャーさんがいるから、これがどうの」ということではなしに、「こういうパートのことは守山や野洲でもやってもらっているんですよ。まさにこういう人がいて」みたいなね。</p> <p>・例えば、こういうものをうまく使うということもあるかもしれない。そうすると、ごみだけではなしに、全体に——希少種のカワラハハコを移動させたとか、そういうことも前にありましたよね。そういうところに引っかかる人もいるかもしれないし、あるいは「モニタリング的なことだったら、ちょっとやってみようか」とかあったりするので。まあ、無理にやる必要はないけど、そういうメニューを示していくと、またいろいろできるかもしれないなと思いつながりながら聞いてましたし、楽しみにしております。</p> <p>・では、報告もいただいたし、年間活動計画も発表いただきました。活動計画は審議事項になっているんですけど、これはもう承認するということがよろしいでしょうか。（「はい」との声あり）</p> <p>・ありがとうございます。</p>
R根木山	・ありがとうございます。よろしく願います。
△中西	・次は、水上レンジャーでございます。資料-2は10ページから、資料-3の来年度の計画は3ページからとなります。
R水上	<p>・水上です。どうぞよろしく願います。</p> <p>・私は、お手元の計画書と報告書で説明させていただきます。報告のほうは10ページから始まっていますが、最初に11ページ以降の活動内容を説明させていただいて、自分の評価はどうか、今年よくできたところはどれかと。それを受けて、計画のほうを説明させていただきます。</p> <p>・まず、11ページ。こちらは前半に説明させていただいたので簡単に言いますと、ずっと続けてます野洲川の河川清掃。特に下流のほうをしています。次の12ページにはそれを詳しく書いてまして、基本的には「つなぐ」ということで実施しています。秋もそれをやっています。</p> <p>・あとは、根木山さんも上流ということでしたが、私も上流のほうへちょっと広げていきました。10月中旬にやる予定でしたけども、ちょっとい</p>

		<p>ろいろありまして、3月19日にこういう形で予定してます。企業とつなぐということで、中国塗料さんとヒラカワさん。これは既に調整が全部終わってます。当然、野洲市、琵琶湖河川事務所との調整も終わっております。あとはやるだけということで、それはまた月間報告のほうでさせていただきますと思っております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もう一つは「水害などから地域を守る」ということで、これは野洲川で防災かまどを使った非常炊き出し体験をやったんですが、近くの南郷小学校がそういう活動を探しておられたので、小学校と行政とをつないで、防災の意識を高めるということで昨年からやり始めてます。今年度も12月にやりまして、90名参加されました。 ・ 今回、工夫したというか、ちょっとバージョンアップしたのは、瀬田川で活動している野村レンジャーと連携して実施しました。その感想を13ページに載せております。野村レンジャーからも後ほど話があるかと思いますが、防災かまどの非常炊き出し体験ではこのような形でいろいろといただきました。全体の感想としては「やったことがないと、どうすればいいかわからない。だからこそ、知ることが大事だ」「今以上の対策が必要だとわかった」「家族でいられることを大切にしたい」と。これは子どもさんの感想です。 ・ 14ページは、野洲川河口部のヨシ帯モニタリング調査です。これはずっと一緒にやってきたものを国交省にバトンタッチしたんですが、人が替わられますので、立命館守山中学校とつなげるところをやって、あくまで主宰は国交省のほうでやっていただくと。これは私のやった成果をバトンタッチしたという活動です。これを今年度も5月にやりました。 ・ 10ページに戻って、環境保全ということで野洲川河川清掃。これは毎年やってますけども、暑くなってくるからもう少し早くできないかという意見がありましたので、当初6月にやっていたんですが、5月にやりました。それから、サポートボランティアにも参加していただいたというのと、企画の段階から河川清掃の皆さんと実施することを考えて、河口部まで延長しました。 ・ 2番の「水害などから地域を守る（防災）」は、先ほど言いましたように野村レンジャーと連携しながら、なおかつ琵琶湖河川事務所とも連携して防災啓発活動を実施することができたということで、これはB評価にしています。 ・ それから、住民の声を聞くというのは、野洲川の活動に関する参加者の声を聞いたんですけど、なかなか野洲川に関する新たな声は聞けませんでした。これは来年の課題かなと思っております。ただ、南郷小学校で実施した防災活動については生徒たちの思いを聞くことができました。それは先ほど話したとおりです。
--	--	--

- ・これまでの活動の中で自ら評価できる点は、先ほどの南郷小学校と行政とをつなぐ防災活動。詳しく言いますと、防災かまどを使った非常炊き出し体験に加えて、新たに野村レンジャーと連携して浸水歩行体験を行うとともに、行政とも連携して防災活動を実施することができた。その結果、避難するときの浸水歩行体験や避難所での防災かまどだけでなく、避難所で皆さんが助け合う「共助」が大切であることを子どもたちに知ってもらうことができました。それから、南郷小学校の先生からは、来年度もぜひこの防災かまどを使った非常炊き出し体験、あるいは浸水歩行体験をやってくださいと聞いてます。
- ・そういうのを受けて、次にどういう計画を立てているかについて説明させていただきます。計画のほうの3ページです。基本的には今年度やったものを継続して続けていくんですけども、少し工夫していきたいと思ってます。
- ・まず、野洲川河川清掃（環境保全）については、下流の河川清掃は引き続きやっていくと。上流の河川清掃は、企業が2社ですので、もう少し増やしていきたいと考えております。
- ・水害などから地域を守る防災活動についても続けていって、ぜひ野村レンジャーとも連携して、計画をつくる段階で調整をさせていただいて盛り込んでいきたいと考えております。
- ・住民の声については、先ほど言いましたように、なかなか川に関することは聞けてませんでしたので、ここは何か仕組みをつくって考えていきたいと思っています。
- ・具体的なところを4ページに書いております。野洲川下流の河川清掃の1回目は、夏季と書いてますけど、今年の結果を受けて、5月にやろうと思っています。3月から準備をしていきたいので、今日もし承認されたら、すぐに調整をかけて、5月にできるようにしたいと思っています。
- ・野洲川の上流のほうは、先ほど言いましたように、今現在、中国塗料とヒラカワの2社ですので、できればもう一社広げるとともに、地域住民にも参加していただくような形でやっていきたいと考えてます。
- ・それから、今年度、野洲市といろいろやる予定で調整してますが、栗東市も入れた形で広げられたらと考えてます。今のところ、担保が取れてませんので、どうなるかというのはあれなんですけども、そこは頑張っけて調整していきたいと思ってます。
- ・水害などから地域を守る活動は、先ほど言いましたように、野村レンジャーと連携しながらやっていきたいと。
- ・野洲川河口部については、皆さん転勤がありますので、今年度は転勤をされる前に今の担当の方と来年の計画を詰める予定です。3月に立命館守山中学校に一緒に行って、戦略ではないんですけども、替わられても

	<p>いいような形で調整をする方向で頑張ってます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上、報告と来年の計画の説明をさせていただきました。よろしくお願ひします。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・水上さん、ありがとうございました。 ・ただいま発表いただきましたが、委員の皆様から、質問、ご意見等ありましたら、お伺ひいたします。 ・はい、佐々木委員、どうぞ。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・水上さんにも同じことを聞いてみたいと思うんですが、私が記憶する限り、河川レンジャーに関わってもう延べ20年ぐらいたってるかと思うんです。それにもかかわらず、来年もまたやってみようということで計画を出されてるわけですけど、その動機というか、モチベーションとか、その辺りを聞かせていただけますか。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・私は皆さんとちょっと切り口が違うんですけど、まず1つは、佐々木委員が言われたように、過去からずっとやってきましたので、外部から見ていて、なかなかレンジャーの活動が進んでないように思っていました。それでレンジャーになりました。だから、裏ミッションと言うと変な言い方ですけども、行政でやってきたことをぜひ私の第二の人生でやりたいということでやってます。それが1つです。 ・モチベーションが上がってくるのは、私は高齢ですので、活動することによって健康管理に非常にいいと。家に閉じ籠もっているよりもそういう活動をするほうがいいのと、特に去年から始めている南郷小学校については、皆さんが孫みたいで、楽しくできるということがモチベーションになっていると。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・やっててどういうところが楽しいとか、モチベーションが上がるかどうか、南郷小学校以外に何かありますか。
R水上	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動も皆さんが喜んでやってくれるというところがあって、そのために、例えばレイマックさんと一緒にやっているときは事務所に働きかけて表彰をしてもらおうと。そういうみんなのウィンになるつなぎをやること、みんなが楽しくやってくれるから、気分よく仕事もできるということです。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。それは非常に大事なご指摘だと思いました。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。 ・はい、北井委員、どうぞ。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動を振り返って、3番の住民の声を聞くというところで、声を聞く方法について、どういうふうにされてたかというのをもう一回聞いてみたいなと思ったのと、野洲川に関する新たな声は聞けなかったというような課題に感じていらっしゃる振り返りがあったんですけど、来年度もう少し工夫しようと思っている部分などがあれば教えていただき

		たいなと思いました。ちょっと聞き方を工夫しないと、たどり着かない部分もあるんだろうなと思ったので、その辺りを教えてください。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・過去にも何回か聞いているんですが、集まってくる人がほぼ一緒なんです。そしたら、「何遍聞くんや」と言われるんですね。だから、逆に「活動に対してどう思われますか」というふうに聞いていると。 ・来年はどうするかというと、まさに言われたように、少し聞き方を考えてみようかなとは思っているんですけども、そのところがなかなか難しい。 ・それから、これは本音の話ですが、例えば「野洲川をどんな川にしてほしい？」を聞いても、それが実現できるかということ、物すごく難しいんですね。それよりも活動に対していろんなことを言っていたら、それをちゃんとやっていけば、「なるほど、レンジャーがうまくやってくれたな」ということで信頼関係ができると。野洲川について聞いても、大きな話ですので、「お前、何遍言わせるんだ」という話も出てくる。だから、ちょっと聞き方は変えますけども、なかなかそこが難しかったというところなんです。
北井		<ul style="list-style-type: none"> ・根木山レンジャーが結果をつけていらっしゃいましたけど、活動自体に対する振り返りもあると思うんです。さっき佐々木委員がおっしゃった「どういうモチベーションで関わっているのか」というのも切り口が違う聞き方だと思うんです。野洲川に関わって好きな瞬間は何かとか、問いかけ方を工夫すると、今までとは違う回答が出てくるかもしれないので、ちょっと広げてみてもいいのではないかと思います。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・はい。そこは一回検討してみます。また分からないときは相談させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
北井		<ul style="list-style-type: none"> ・「こう聞いてみたらいいのでは？」というのが出るかもしれないですね。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにはいかがでしょうか。
平山		<ul style="list-style-type: none"> ・今さらの質問なんですけども、南郷小学校の防災活動というのは、場所はどこでされているんですか。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・防災かまどは煙が出るのでどこでやろうかと考えたんですが、南郷小学校のグラウンドでしているんです。
平山		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の中？
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・中です。
平山		<ul style="list-style-type: none"> ・そうすると、疑問として湧いてきたのが、川づくりとか川の利用ということとこの活動の関係というのはどういうふうに考えたらいいですか。
R水上		<ul style="list-style-type: none"> ・河川レンジャー誕生の背景の中に、治水・防災の住民の意識が薄れていると。それで、当時の流域委員会から、河川レンジャーを誕生させて、そういう課題解決のためにやったらどうかと。だから、川の中ではない

		けど、住民の治水・防災意識を高めることをやっているから、これは十分河川レンジャーの活動にはなると思ってますけども。
	平山	・それは分かるんですけども、計画の実施目的のビジョンのところ「参加の川づくり」を挙げていらっしゃるんで、そのつながりを期待したんですが、それはちょっと置いといてという話ですか。
	R水上	・行政と一緒に防災のことも考えるということで、一つの川づくりに向けた活動かなという広い解釈をしています。
	平山	・分かりました。川のあるなしにかかわらず、防災の意識、防水の意識を持ってもらいたいということですかね。
	R水上	・そうです。だから、計画の3ページの「ミッション達成のための具体的な川づくりのテーマ」の5番に「水害などから地域を守る」と書いてますが、この部分でそういう形でやっています。
	平山	・はい、分かりました。ありがとうございます。
	佐々木	・ちょっと関連していいですか。
	中谷	・はい、どうぞ。
	佐々木	・南郷小学校のところは、目の前の川が氾濫して床下浸水を食らったエリアだったと思うんです。だから、あそこも川の沿川といえば沿川ですね。
	R水上	・そうですね。
	佐々木	・そうですね。たしかポリテクのところでは決壊して、結構水が流れたのを覚えているので。
	R水上	・宇治発のところですね。ずっと下って。
	佐々木	・そうそう、そうそう。宇治発のところから流れてるやつがあの一帯に浸水被害を出しているんで、南郷小は沿川だと思ってます。
	平山	・今の話をお伺いして、グラウンドだけで閉じずに、小学校がどういう場所かということと防水の体験とを関連づけてされるといいかなと思いました。
	R水上	・それともう一つは、防災意識、防災教育に物すごい力を入れておられるので、ちょうどいいんです。もちろん瀬田川の沿川ですから、瀬田川の浸水想定区域とかハザードマップについては、行政の担当者が来て、話をしてもらってます。
	佐々木	・せっかくそういう場所でもあるので、うまく絡められたらいいなぐらいの話です、私の意見は。
	R水上	・分かりました。
	中谷	・柴山委員、どうぞ。
	柴山	・コメントですけど、ヨシ帯の調査は環境という観点でPRしたりしますので、ほかの清掃活動等についても引き続き連携させていただければ

		などいうところがございます。
	R水上	・行政とつなぐということで、今後も協力いただけるよう、ぜひよろしくお願いしたいと思います。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・では、活動計画については承認をするということで。（「はい」との声あり） ・委員の皆さんから出た意見も参考にして進めていただければと思いますので、よろしくお願いします。
	R水上	・どうもありがとうございました。
	△中西	・続きまして、野村レンジャーにお願いしたいと思います。資料－２は18ページから、資料－３は6ページからです。
	野村	<ul style="list-style-type: none"> ・こんにちは。レンジャーの野村です。よろしくお願いします。 ・今年度も皆さん方のおかげで、また関係してくださるたくさんの方のご協力のおかげで活動をさせていただくことができました。本当にありがとうございます。 ・では、まず今年度の活動について報告をさせていただきます。 ・3年間ずっと変わらずなんですけれども、自分と瀬田川の間わりを実感して愛着を持つ人を増やしたいという目的でやっております。 ・それで、野洲川は中に入れるんですけども、瀬田川は管理をされていて、住民が近づけるところを探すのが難しいということで、できることをすると。洗堰がとても特徴的なんですけれども、そこを中心にして気づいていく機会をつくっていきたいなと思っています。そして、住民の川への思いを聞き取り、膨らませ、住民と行政とをつなげられるように活動したいと思っています。 ・まず、私の活動のメインとなりますのが瀬田川たんけんたいという親子でやっているものです。子どもが中心になりますので、実感を通した理解ということがまず大事になると思ひまして、その理解をもとに「瀬田川って、すごいな」「大事にしたいな」「きれいだな」という思いを行動化していくと。ただ、それは今年もできなかったんですけれども、「自分もごみ拾いしたいな」とか、そういう声がいろいろ上がるようになりまして、来年度はそれを生かしていきたいなと思います。 ・6回目のときに1年生の子どもが「これだけいろんなことをさせてもらって、関わってくださったいろんな方に僕は感謝している。ありがとうと言っといてください」というふうに言ってくれて、感動しました。おうちの方からも「川が大好きになりました」とおっしゃっていただいています。 ・それから、ワークショップですけれども、フナずし漬けをさせていただきました。魚に触れることは、臭いとか、何かあるかなと思ったんです

けども、きちんとお話をすることによって興味を持っていただいて、みんなすごく丁寧に作業してくださいました。食べたいという声も聞かれたんですけど、検討中というふうに言っています。

- 植物観察会は12月にしたんですけれども、ここの管理と植物というのはすごく関わりがあって、生き物の生き方もいろいろ勉強させてもらいました。幼木伐採の堆肥を使ってとか、私も幅広く勉強ができましたし、知っていただくことができたかなと思います。
- 3回目は貝掻き漁を体験させていただく予定です。3年間続けてきましたので、いろんな話を事務室へ行って聞かせていただくことができています。
- 3番目は「活動の場で聴き取ったことを行政につなぐ」ということで、結果がないので申し訳ないんですけども、各回でアンケートをとっております。振り返りカードに住民さんのお声が上がってまして、それを活動報告書にまとめて月ごとに報告させてもらっています。「川の管理はすごく大変なお仕事だということを今まで全く知らなかったけれども、今回知るできた」とか、外来魚の対策については、県の思いやどういう調査をしているとか、ヒアリングの結果を伝えることができたのが今年はやかったなと思っております。
- 関係づくりとしまして、たんけんたいの親子から、学校での学習のことや水との関わりなど、いろんな話を聞かせてもらうようになりましたし、支援室の方が呼びかけてくださって、環境に関わる学生とかがたくさんボランティアとして参加してくださるようになりました。学生の方も、例えばここに滋賀大の学生が来てても「自分には経験がないし、大石のことは行ったこともないし、知らなかった」ということでしたが、「こういう機会があったらよかったのに」とか「卒業してからも来てもいいか」とか、そういう話もいただいておりまして、本当にありがたいです。
- 淀川管内の河川レンジャーさんともメールでやり取りしたり、話を聞いたりしているんですけども、いろんな情報をいただいております。
- それから、水上さんに教えていただいた南郷小学校ですけれども、南郷小学校が水に関わることをとても大事にされているということが分かりました。児童の皆さんも驚いたり、たんけんたいの活動をほかの子に積極的にしゃべっている姿を目にして、これからも関わっていけるといいなと思っています。
- 報告は以上です。
- 次に来年度の計画についてなんですけれども、たんけんたいはぜひ続けたいなと思っています。この活動は川に愛着を持つ住民を増やすということを目的にしておりますので、まずは継続することが大切になってくると思います。新たな参加者も増やしながらやっていきたいなと思って

		<p>います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者同士の交流という面についても、今年度それが何か芽生えてきたような気がして、こういう話し方をすれば相手に話が聞けるんだとか、自分の学びが大きかったので、やっていきたいと思っています。 ・次年度の成果目標は、今年度声があった河川管理作業、クリーン作業なんですけど、そういった行動化をすることによって、その思いがより強化できるように取り組みたいと思っています。 ・それから、学校の先生から「自分は遊んだことがないから、川とどう関わったらいいのか分からない」みたいな声がありましたので、まずは南郷小学校の近くで関われる場所を見つけていくということを自分のミッションにしたいなと思っています。 ・外来魚問題は、「こういうようなことが問題になっている」というのを住民に啓発するような機会をつくっていききたいなと思っています。 ・たんけんたいの計画では、ほぼほぼ一緒なんですけれども、現状に向けて自分ができることを考えて行動化するとか、川の状態を見て過去・現在・未来のイメージを自分の中につくるとか、冬鳥の観察ですと、広い視野で世界の環境とのつながりに関心を持つとか、そういうようなことを目指したいなと思っています。 ・ということで、ざっくりなんですけれども、承認いただけたらありがたいです。よろしくお願いいたします。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・野村レンジャー、ありがとうございました。 ・では、委員の皆様から質問やご意見がありましたらお伺いします。 ・はい、佐々木委員、どうぞ。
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・ご発表、ありがとうございました。 ・今年度活動されていて、ご自身の中で一番河川レンジャーらしい取組ができたなという瞬間があったら、そのエピソードを教えていただきたいんですけれども。
	R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど申し上げましたが、子どもが「僕はたくさんの人と関わった。ありがとうございますといて」みたいなことを言ってくれたんです。たんけんたいの6回目はかるたを作ったんですけど、自分のかるたを見せながら「僕はこういうことが心に残りました」ということとともに「こういう活動ができたのはいろんな方に関わってもらったおかげです」みたいなことを1年生の子が言ったということで、みんなびっくりしたんです。そういうこととか、「自分は中学校に行くんだけど、中学校で部活をする予定はないので、ここへ来てもいいか」みたいなことを言ってくれたので、それはつながっていけたらいいなと思います。
	佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
	中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがでしょうか。・・・では、私から。

	<ul style="list-style-type: none"> ・たんけんたいのメンバーを募集して、いつも着実に進めてもらってますけど、来ている人のフィールド、住んでいる場所とか、その辺の広がり具合はどんな感じですか。どの辺の住民さんが多いですか。
R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・南郷小学校、石山小学校がメインですが、附属小学校にチラシを持っていきましたら、そこの先生が「僕が学びたい」と。その方は彦根の方なんですけど、子どもを3人連れて参加してくださっています。その彦根の方が一番遠いです。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば南郷とか、この辺の小学校の子どもたちが来てて、さっきも1年生の感想がありましたが、その広がり具合はどのように感じておられますか。
R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・南郷小学校の校長先生、教頭先生から、たまたま時間があったからか分からないんですけど、いろいろお話を聞かせていただきまして、「うちの子は、地域性としてこういう特性がある。だから生きていく力を身につけさせたいと思っていて、学校でもやろうとしているけれども、こうやって専門家の話を聞いて実体験できるのはすごくありがたいと思っている」というようなことを言ってくさっています。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう校長先生がいる間に、例えば水害で水がいっぱいあるときに歩いたらどうなのかということを経験すると、自分が住んでいる周りではどうなのかとか、地域をよく知ろうよと。住んでいる場所によって微妙に高さが変わったりして川との関わり具合も違うんだけど、そういうふうに自分で危ないところを見つける、「ここは気をつけよう」みたいなところが、学校の中での活動というか、教育の一環として広がっていくと、さっきのハザードマップにつながったり、はたまた防災かまどで「こうなったときにはこういうこともできる」みたいな、広がる余地はいっぱいあるなと思って聞いてました。
R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・たんけんたいでも河川事務所さんに紹介していただいたり、ここら辺のハザードマップを見せたり。そういうのは4年生以上の子はもう学校で勉強して、「こういう危険があると思う」とか、いっぱい言ってくれて、それを聞いて、1年生から3年生までが「もう一回歩いてみような」というような親の言葉があったりとかいうことを今思い出しました。すいません。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・ほかにいかがでしょうか。はい、どうぞ。
柴山	<ul style="list-style-type: none"> ・発表、ありがとうございました。 ・雨たいけん室がまだ故障中で、今どう直すかを検討してはいるんですけど、すぐというわけにはいかないもので、引き続き鋭意進めていければなというところです。

	<ul style="list-style-type: none"> ・代わりということではないかもしれませんが、浸水歩行体験を企画していただき、ありがとうございます。 ・今年度の実績を改めて見せていただくと、たんけんたいは全部で5回シリーズで、瀬田川のことをいろいろ学べるような企画というふうに私は認識したんですけども、こういった形でやることは非常に重要だなと。人数は20人程度ですけど、引き続き来年度も新しい人を募集して、どんどん瀬田川たんけんたいで学んだ方を広めていけると、川に愛着を持つ人の広がりも出てくるのかなというふうに思いながら聞いておりましたので、また引き続きよろしく願いできればという思いでございます。ありがとうございます。
R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・北井委員、どうぞ。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年講座の内容が充実しているなと思ひながら拝見しています。チャンネルキャットフィッシュの話や生き物の命の話など、文化的なことと防災のこととか、多面的にレクチャーできるような内容が素晴らしいなと思います。 ・ただ、いつも運営の部分が大変じゃないかと気になっています。企画や当日の運営も野村レンジャーがされているかなと思うんですけど、ボランティアスタッフさんとの分担、誰がどういう役割をしているかみたいなことをもう少し教えてください。
R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・本当はきちんと事前に打合せをしたほうがいいんでしょうけれども、その部分は支援室にお任せをしまして、実務的な、例えば受付のときにそばにいてくれて「今日お世話になるお兄ちゃんたちだよ」と言ったり、荷物がたくさんあるときに河原に持っていくとか。具体的な例でいうと、プランクトンでキーホルダーを作るときに、オープンを使うところは危ないので、大学生に任せるとか。あとは、そばへ行って、何でこの作業をしているのかとか、「これはな」とか「こうやってしてみたら？」とか、顕微鏡の直し方とか、そういうようなことは私が知っている範囲でレクチャーするというような感じで、大学生にも川のことをできるだけ好きになってもらいたいという気持ちで関わっている感じですかね。でも、何回も繰り返し来てくれる子もいますので。そんな感じです。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろ幅広いテーマを持ってやっていただいているので、そういうところを受けて、例の外來ナマズの話も行政側がうまく受け止めてちゃんと対処できるような仕組みにつながっていくといいなと思って聞いてました。「連携して頑張りましょう」だけ言ってもなかなか難しいので、そういう活動でアピールしてもらおうことによってまたその辺がうまく転

	<p>がり出すということもあるかもしれないし、大いに期待をしております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ということで活動は承認させていただきますので、また頑張ってくださいと思います。
R野村	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしく願います。ありがとうございました。
△中西	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。 ・それでは、最後、末吉レンジャーです。末吉レンジャーは、2年の任期の中で、今年度が2年目に当たります。1年目は4か月だけで、1年4か月の任期が3月までとなっておりますので、計画のほうはなくて、年度の報告だけになります。お手元の資料は26ページからです。説明5分、質疑応答5分で考えておりますので、よろしく願います。
R末吉	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャーの末吉です。よろしく願います。 ・私はおとしの12月からレンジャーをさせてもらいまして、最初はアート系で何かできないかなと考えていました。それで、瀬田川を歩いたり、他のレンジャーさんの活動を見ていまして、ちょっとこれは無理だなと思うようになりました。 ・最初は、清掃活動して、アクセサリーか何かを作って、大きなモニュメントを作れないかなと思ったんですけど、実際調べていくと、基礎工事から鉄骨工事から、すごく大変なものになりまして、3年に1回ぐらいメンテをしないといけないので、ちょっとこれはレンジャーの活動じゃないなとなってきました。それで、当初はSNSやデジタルマップを使って集客等を考えてましたので、それを転用して、デジタルマップの活用という形に変更して進めていきました。 ・デジタルマップは、「みんなでつくろう！AI×瀬田川デジタルマップ」という形でさせてもらいました。8月は、暑かったこともありまして、2名。9月は6名。11月は、インフルエンザで学級閉鎖がありまして、参加者が1人しかいなかった状態でした。 ・マップにすることによって歴史等を見直したり、ウォーターステーションでやることによって初めて来られた方がいました。 ・これは地域の活動です。建部大社の船幸祭や大戸川ダムの見学に行かせてもらいました。 ・滋賀大学の公開授業では、湖沼の先生のお話を聞くことができました。琵琶湖の水位がマイナス管理されているということで自然環境に与える影響をすごく心配されていたり、瀬田川には外来魚ボックスがないということで、これがあれば外来魚の調査につながるのではないかというお話をいただきました。 ・これはワークショップをやっている様子です。 ・ワークショップの聞き取りが若干弱かったんですけども、琵琶湖に入ってくる川は117本あるかと思うんですが、出る川は瀬田川一つしかない

	<p>ということで「あふれないか？」というお話がありました。あと、自分の好きをデジタルマップにするとときに、例えばマンホールを置いていったりしたら活用できるのではないかという話でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルマップはGoogleのマイマップを使いまして、私が管理できるような形で作っております。Googleマップは各自で作ってもらうという形で、このワークショップではマイマップで限られた範囲で作っております。 ・これは、SNSで瀬田川の魅力を発信という形でさせてもらいました。 ・今後の課題です。この1年間活動させてもらって、何もかもが発見だったんですけども、まず集客がすごく難しいというのを思い知りましたので、今後は集客の広域化。例えば、浜大津から瀬田川、石山、瀬田川周辺をさせてもらおうと。あと、広報活動の強化とイベントの定着化。今年は1回ずつの開催で、1回ずつの集客チラシということだったので、これを前期開催・後期開催という形でまとめて開催して、集客をして意見を聞き取っていきたいと思っております。 ・以上です。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・報告ありがとうございます。 ・では、委員の皆様から質問やご意見がありましたら伺います。 ・はい、どうぞ。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度活動されて、河川レンジャーはどういうものだという認識になりましたか。
R末吉	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民さんと交流といいですか、意見を聞き取って行政につないでいくというのがレンジャー活動のメインだと思いました。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・何かそれを実感できる機会はありましたか。まだそこまではいいない？
R末吉	<ul style="list-style-type: none"> ・実感ですか。・・・まだ行政のほうに伝えられてないというのがあります。
佐々木	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
中谷	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかにいかがでしょうか。 ・はい、どうぞ。
北井	<ul style="list-style-type: none"> ・1年と少しということですけども、試行錯誤されて、いろんな部分を実践に移されたんだなと思いながら拝見してました。 ・マイマップのワークショップは2名・6名・1名ということでしたけど、9月のときはどういう感じで6名集まっていっちゃったんですか。
R末吉	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットから、私の知り合いでもあったんですけど、4名来ていただいたんです。それと赤尾の方。おばあちゃんとお孫さんなんですが、ここのチラシを見て来ていただきました。 ・2回連続は1か月置きでできたんですけども、その後、私も忙しかった

		ので、1か月空いてしまったんです。これをもし連続開催してたら定期的に来てもらえたかなというのが反省しているところです。
北井		<ul style="list-style-type: none"> ・連続してたら減っていくこともあるし、いろいろやっても集客は難しいなと思いますから、どんな内容をしたかを発信するとか来てくれそうな層にうまく当たるとか、いろんな工夫が必要かなと思いました。 ・運営されてて、ほかに課題などはなかったですか。講座なりワークショップなりするにしても、今回はそこを中心にやっていこうかなということかと思うんですけど、もう少し改善が必要だなと思うところが何かあれば。
R末吉		<ul style="list-style-type: none"> ・2点ほどありまして、集客が大分弱いので、行政さんのお力を借りてやっていきたいなというのがあるんです。ただ、それをするには後援が必要だったりしますので、そちらで何か手を打ちたいなと思ってます。 ・もう一つは、マイマップなんですけど、パソコンがないと編集ができないんです。私も古いパソコンを2台は用意しているんですけども、もし要らないパソコンがあれば、提供していただけたらうれしいなと思ってます。
北井		<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど。分かりました。 ・告知の方法はまた何かアイデアを。べたですけど、広報に載せるとかもありますしね。
佐々木		<ul style="list-style-type: none"> ・蛇足ですけど、外来魚回収ボックスは瀬田川で1か所だけあるんですが、御存じですか。
R末吉		<ul style="list-style-type: none"> ・それは滋賀県のほうじゃないですか。
佐々木		<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。だから、琵琶湖河川事務所がされているのではないんですけども。
R末吉		<ul style="list-style-type: none"> ・多分、琵琶湖河川事務所の管轄にないと思うんです。
佐々木		<ul style="list-style-type: none"> ・いや、1か所だけあるんです。青年会館のところに1か所あります。昔から唐橋のところに1か所あって、多分知られてないんだと思います。
R末吉		<ul style="list-style-type: none"> ・すいません。見てきます。
佐々木		<ul style="list-style-type: none"> ・中之島のところにあるみたいです。
R末吉		<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。
中谷		<ul style="list-style-type: none"> ・はい、どうぞ。
柴山		<ul style="list-style-type: none"> ・発表、ありがとうございます。 ・滋賀大学や金融機関にチラシの掲示を依頼したということですが、金融機関というのは何か理由があったんでしょうか。つながりがあったというぐらいですか、選んだ理由として。
R末吉		<ul style="list-style-type: none"> ・たまたま市民活動みたいところで会いまして、膳所支店の支店長さんに「こんなことをやっているんですけど、チラシを置いてもらえません

		か」としゃべってたら、結構前向きで、「チラシを出してもらったら検討する」ということだったので。
	柴山	・それは支店に置くということですか。
	R末吉	・とりあえず支店に置いてもらって、石山、瀬田とか大津とか、この瀬田川周辺に置いてもらおうと思っています。
	柴山	・そこまでしてくれるんですか。
	R末吉	・はい。
	柴山	・分かりました。
	R末吉	・もしかしたら、それで企業さんとつながっていけないかなというのもありましたので。
	柴山	・ああ、いいですね。 ・あとは集客をどうするか。我々もどこまでご協力できるかというのはあるんですけども、できることを考えていければなというふうに思います。
	R末吉	・人数が集まってきたら、マイ・タイムラインとか浸水想定図とか、説明をしてもらえるとうれしいなと思っています。頑張って人を集めますので、ぜひお願いします。
	中谷	・では、末吉さん、報告ありがとうございます。引き続き計画の審議ということで伺いますが、一旦ここまでとさせていただきます。

(太字：決定事項、R印：河川レンジャー、△印：事務局、○印：一般傍聴者)

審議項目	発言者	発言要旨(発言順)
5. その他	中谷	・傍聴の方は来られていますか。
(1) 傍聴者からのご意見	△中西	・今日は、傍聴の申込みはありませんでした。
	中谷	・では、次に進む準備をさせていただいて。
	△中西	・それでは、公開の委員会としては、これで一旦終了させていただきます。この時点で河川レンジャー4名の方にはご退室いただきます。 ・これより資料等を配る時間を設けまして、非公開の審査をさせていただきます。応募していただいていますのは末吉レンジャーでございます。 ・今、16時30分ですので、5分休憩しまして、35分より再開したいと思います。平山委員におかれましては、接続したままでお待ちいただけたらと思います。